

月刊しばうら

2026年 2月号

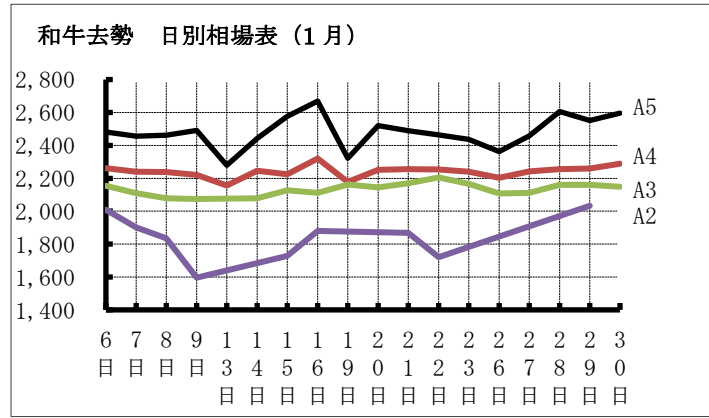
牛肉営業部

<1月の相場動向>

1月相場は例年、成人式以降に軟調へ向かう傾向がある。しかし今年は、量販店・飲食店ともに正月三が日後の売上が想定を下回り、市中には年末在庫も残っていたことから、月初から軟調の展開となった。物価高の影響で、消費者の需要が豚肉・鶏肉へとシフトしたことも相場の重しとなったとみられる。

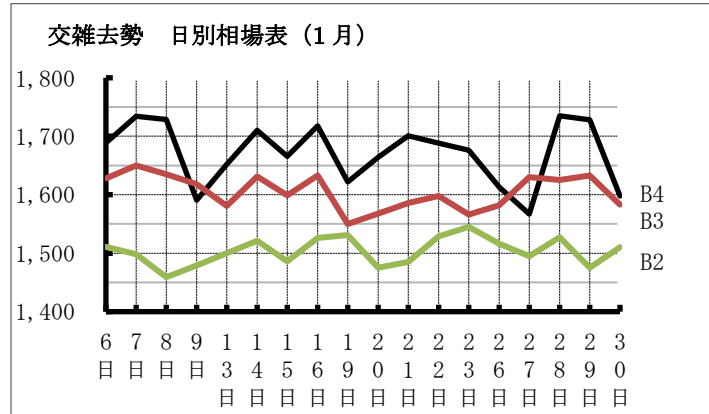
一方、気温が低く推移したことから値頃感のあるスライス材は堅調に推移。和牛は2・3等級で前年を上回り、交雑牛は全等級で前年実績を超えた。

飲食店では、中国の渡航自粛要請により中国人訪日客が減少した影響もあり、店舗によって業績に明暗が分かれる状況となっている。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,494円	-26円	99.0%	-210円	92.2%
A4	2,243円	-12円	99.5%	-257円	89.7%
A3	2,136円	+52円	102.5%	-216円	90.8%
A2	1,863円	+58円	103.2%	+241円	114.9%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,670円	+8円	100.5%	-139円	92.3%
B3	1,601円	+56円	103.6%	-65円	96.1%
B2	1,497円	+79円	105.6%	-38円	97.5%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	-	-	-	-	-
B2	1,234円	+117円	110.5%	+6円	100.5%

<2月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、12月の輸入量は前年同月比9.7%増の4万3,030tで、うちチルドは3.8%増の1万6,619t、フローズンは、前年同月比13.7%増の2万6,411tと共に上回った。フローズンは豪州産トリミングの増加がけん引した形となった。

農畜産業振興機構によると1月の牛肉輸入数量は、前年同月比7.6%増の3万5,000t(チルド1.9%減・冷凍14.2%増)と予測している。チルドは米国産輸入量の減少、冷凍は豪州産トリミングの輸入量増加が見込まれると予測している。

2月は前年輸入量の7.3%増の3万1,500t(チルド10.4%増・冷凍5.5%増)で予測している。

輸入牛肉通関量		12月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	9,340	8,277	112.8%
	米国	5,832	6,374	91.5%
	その他	1,447	1,353	106.9%
	合計	16,619	16,004	103.8%
フローズン	豪州	15,565	10,531	147.8%
	米国	7,156	8,521	84.0%
	その他	3,690	4,171	88.5%
合計	26,411	23,223	113.7%	

出典：食肉速報 単位：t

<2月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による2月の出荷予測頭数は、全体で前年比94.7%の7万8,300頭で、品種別にみると和牛は同6.1%減の3万7,400頭、交雑種は同1.7%減の1万9,500頭、乳用種は同7.5%減の2万800頭と予測している。

東京食肉市場の2月と畜頭数は6,450頭(前年比96.5%)を予定しています。

<2月の牛枝肉相場見通し>

2月は、平年並みの低い気温であれば鍋物需要が高まり、スライス材を中心に一定の販売が期待できる時期だが、最低気温が10度を上回る日が続くと鍋物需要は急速に落ち込むため、天候によって荷動きが大きく左右される可能性がある。

一方で出荷予測は前年を下回る見通しであることから、和牛・交雑牛ともに低価格帯の等級は締まった相場展開が予想される。

一方、飲食店では2月7日から始まるミラノ・コルティナオリンピックの影響で客足の鈍化が懸念され、和牛の上位等級については弱含みの推移となる恐れがある。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,500~2,800	B4	1,650~1,750
A4	2,250~2,500	B3	1,550~1,650
A3	2,050~2,250	B2	1,450~1,550
A2	1,800~2,050		
乳牛去勢			
B3	1,300~1,400		
B2	1,200~1,300		

豚肉営業部

12月の全国と畜頭数は、149万820頭(前年同月比1.8%増)と前年を上回った。また、12月の豚肉通関数量は6万8,401t(同10.7%減)と前年を大幅に下回り、前月比では4.7%増となった。内訳はチルドが3万4,659t(同0.3%増)、フローズンは3万3,742t(同19.7%減)となった。

2024-2025年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
12	80,661	76,518	22,458	185,736	79,425	85,579
1	79,908	80,505	23,536	190,508	78,746	75,733
2	72,607	71,911	24,121	192,819	71,884	69,600
3	76,052	65,956	24,424	192,115	75,606	66,660
4	77,457	93,904	24,518	197,256	77,266	88,763
5	73,100	90,460	24,091	214,149	73,406	73,567
6	68,598	83,731	24,109	222,274	68,453	75,606
7	69,871	82,687	22,399	219,105	71,374	84,255
8	63,753	74,022	21,855	216,178	64,151	76,949
9	70,991	76,220	21,545	213,175	71,134	79,223
10	81,313	84,875	21,943	209,457	80,789	88,593
11	76,416	65,268	22,199	196,931	75,962	77,794
12	82,651	68,313	22,928	182,068	81,767	83,176
比	103%	89%	102%	98%	103%	97%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

12月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	10,647	90.2%	デンマーク	1,906	60.5%
カナダ	19,717	104.2%	スペイン	8,600	69.3%
メキシコ	4,286	112.0%	メキシコ	2,929	69.0%
			アメリカ	5,145	104.9%
			カナダ	2,814	115.6%
合計	34,659	100.3%		33,742	80.3%

単位：t

<1月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
6日	72,500	608	589	1,137
7日	71,600	608	577	970
8日	72,700	584	558	1,025
9日	66,900	569	533	1,039
10日	-	522	511	788
13日	76,200	551	541	1,117
平均	71,980/日			1,013/日

年明けは補充手当ての影響で600円絡みのスタートとなったが、10日(土)の臨時開市には522円まで下落した。その後は不要期に入ったこともあり、相場は弱含みで推移した。出荷は順調だったものの、出荷重量が大きく、上物率の低下が目立った。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
14日	73,700	544	536	1,050
15日	72,400	563	551	984
16日	71,600	601	564	1,039
19日	70,400	571	536	1,026
20日	69,100	559	513	1,072
21日	70,300	574	526	956
平均	71,250/日			1,021/日

連休により1日当たりの出荷頭数が増え、学校給食の再開もあり、切り落としなどを中心に引き合いが強まったことから、相場は落ち着いた動きを見せた。当初は上物・中物の格差なく推移していたが、徐々に開きが出るようになっていった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	69,900	547	526	981
23日	70,000	536	504	889
26日	65,700	487	451	1,017
27日	68,600	515	503	1,031
28日	68,600	578	532	928
29日	68,800	567	523	904
30日	68,100	566	537	1,062
平均	68,529/日			973/日

日本海側を中心に大雪による出荷遅れや、気温低下による生育への影響から、この時期としては出荷頭数が少ない状況となった。一方で消費者の節約志向は強く、末端消費が冷え込んでいるため、相場は不安定な展開となった。

<2月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和8年2月の肉豚出荷予測では124万頭(前年同月比96.0%)と予測している。当市場の2月集荷予定頭数は1万7,000頭、1日あたりでは約944頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると2月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万4,300t(同89.4%)、内訳は冷蔵輸入量が3万1,500t(同114.1%)、冷凍輸入量は3万2,800t(同74.1%)と予測。

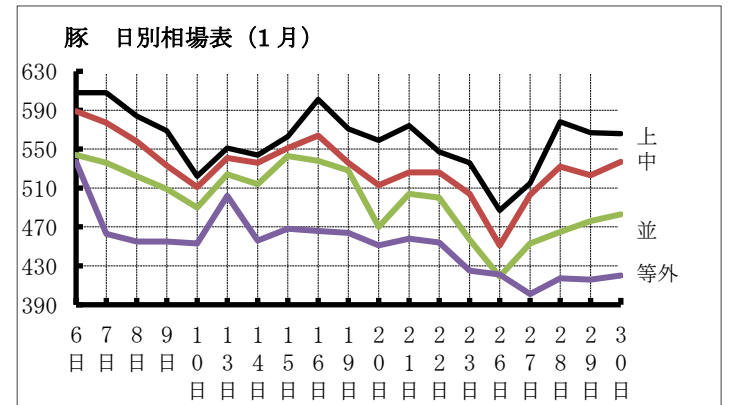
冷蔵品輸入量は、前年の輸入量が通関のずれ込み等を受け低水準だったことから、前年同月をかなり大きく上回ると予測する。なお、3カ月平均では前年同期をわずかに上回ると予測される。

冷凍品輸入量は、もともと前年同月を下回って推移してきた中で、アフリカ豚熱発生によるスペイン産の輸入一時停止措置の影響も加わったことから、前年同月を大幅に下回ると予測する。同様に3カ月平均でも前年同期を大幅に下回ると予想される。

気象庁の予報によると2月は気温が全国的に低く、日本海側を中心に降雪量も多いとしている。積雪による物流への影響や、野菜価格高騰など懸念材料もあるが、量販店での特売の動きや、受験シーズンのとんかつ需要の強まりに期待が高まる。また、昨年からの枝肉相場の高騰から凍結品在庫の不足が続く中で、スペイン産豚肉の在庫に関する報道もあり、相場展開次第では国産バラ・肩ロースの凍結品の引き合いが強まり、相場の下支えとなることが予想される。

供給面は一部地域で寒波による増体不良や疾病の影響がありそうだが、全体的には出荷頭数は順調に増える見込みだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は560円前後、中物平均価格540円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127